

20 世紀の社会学者ジンメルは貨幣こそが近代の成立を支えたとその著書のうちで言っている。近代以前にも貨幣は存在したが、それは貨幣的に使われたというよりよりシンボリックに使われたといえるだろう。あるいは、貨幣を貨幣として使うようになってからが近代ともいえるかもしれない。貨幣に関する以下の質問に答えよ。(1 行は 30 文字)

1. 世界の大部分の国において、貨幣の原初たる形態が初めから金属であることは珍しい。東洋において、特に中国の殷代においては、金属とは別のものが貨幣の原料、あるいはそのものとして扱われた。その名前を記せ。
2. 現存する最古の貨幣は、紀元前 7 世紀にリディア王国で作られたエレクトロン貨とされる。このリディアを滅ぼした王朝と国を併記せよ。
3. 貨幣の原料となるものは、当時、価値をもっていたものか(valuable)、それ自身が流通しやすいか(portable)による。俗説にすぎないが、ローマ軍団兵のうちでは貨幣ではない、あるものが給料代わりに手渡されていたという。サラリーマンという言葉のヒントに、このあるものを記せ。
4. 貨幣は流通して初めて価値を持つのであり、一つの国にいくつもの貨幣が存在することは経済発展の妨げとなる。中国秦の始皇帝は半両銭をもって貨幣の統一を成し遂げたが、続く前漢の武帝は何を持って貨幣の統一を図ったか記せ。
5. 従来は鑄造貨幣に対して、世界で初めて紙幣が誕生したのは中国である。政府によって発行された手形としての元祖は北宋の交子にさかのぼるが、それ以前に唐代から用いられていた手形の名前を記せ。
6. 中世ヨーロッパの農奴解放にとって貨幣地代の影響は忘れてはならない。貨幣は農民に蓄積、定額の納税、人格的開放を可能にしたからである。こうした貨幣の普及は商業ルネッサンスともいわれるが、封建社会成立期の 8~10 世紀のヨーロッパにおいて貨幣経済はむしろ衰退していた。これはなぜか、1 行以内で記せ。
7. 大航海時代の 1545 年に発見されたボリビアのとある銀山は、当時のヨーロッパで起きていた商業革命を鑄造貨幣の原料に資するという点で大きく支えた。この銀山の名前を記せ。
8. 銀本位制と金本位制の差異はその原資の価値を銀と金のいずれにおくかにある。清代までの中国や明治時代までの日本においては前者が採用されていたが、後者へ転換を余儀なくされた。それは欧米列強が金本位制を採用していたからであるが、列強のうちで、金本位制を法的にはじめて成立させた国の名前を記せ。
9. 19 世紀において、ヨーロッパ諸国の大部分は金銀複本位制を採用していたが、事実上は、銀本位制であった。それは「悪貨は良貨を駆逐する」からである。この有名なテーゼを残した学者の名前を記せ。
10. 1971 年アメリカは金とドルの兌換停止を発表(ニクソン＝ショック)し、これを境に世界は管理通貨制度へと移行していくことになる。ニクソン＝ショックを招いた 1960 年代アメリカの財政支出の大きな要因を二つ記せ。